

知事と区市町村長との意見交換（多摩市）

令和1年10月3日（木）

13時20分～13時40分

○行政部長 それでは早速ではございますが、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 阿部市長におかれましては、大変お忙しいところわざわざ都庁までお越しいただき、誠にありがとうございます。また、先だつての総合防災訓練では市長と共に相互の連携の確認ができたと思います。今後ともよろしくをお願いいたします。

今、長期戦略、東京都にとりまして重要なこの道筋を描く際に、それぞれの地域の皆様方の生の声を伺わせていただくということで、お越しいただいております。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

○行政部長 阿部市長、よろしくをお願いいたします。

○多摩市長 今日はお忙しい中、また私共のために時間を割いていただき、ありがとうございます。先日の総合防災訓練の時には天気にも恵まれて、知事にも多摩センターと、そしてまた市民の皆さんが日頃かなり頑張って防災意識の、私共にとっては啓発であります。市民にとっては参加することによって肌で覚える。そういう意味では今回、東京都の非常に大きな力をいただいたことで、多摩市の防災力もさらに強まったのではないかと思います。本当にありがとうございました。

今日私の方からは大きく2点ほど。1つはこれはもう多摩市というより東京都、国挙げてという話かもしれませんが、先日、国連でグレタさんが、16歳のね、高校生が、私も何と言っているのか、胸を打たれたというか、大人共政治家は何とかしなきゃいけないんだなということ、再度思いました。

線状降水帯という言葉に代表されるように近年の豪雨、酷暑等、気候の言ってみれば変動というより、地球温暖化の本当に影響というものが身近に感じられる、深刻になってきていると思います。全ての主体が対策に取り組むべき課題だと認識しております。

私共のまちにおきましても、市民の取組の支援として省エネルギー機器の導入事業等実施させていただいておりますが、市としても公共施設におけるエネルギー対策として、例えば今度多摩センター、多摩中央公園の中に図書館本館を再整備いたします。約5,500平米であります。ここではZEB化の検討も行ってございまして、ZEB100%を目指していたところではあります。今ZEBレディということで目指しております。

全国的にも公共施設の老朽化って問題になっておりますが、私共としては新築についてはこのように考えていくところではあります。既存の公共施設における対策も重要だと考えております。

今申し上げたように、老朽化問題に対しては早くから多摩市では取り組んできておりますけれども、老朽化問題そのものには計画的な対応を図っていく予定ではあります。老朽化対応だけでも相当な財政負担ということになりますので、都としても新築のみならず、

既存の公共施設での省エネルギーを推進していくという時に、ぜひ財政的な支援をお願いできるようなスキームをつくっていただきたいと思います。と思っています。

それからもう1つがプラスチック問題への対策ということでもあります。東京都の今回8月に出された「未来の東京への論点、今なすべき未来への投資とは」という中で、私も読ませていただきまして、特に小池都知事の下で強力に進められているゼロエミッション東京に向けた大胆な取り組みというところでは、先日総合防災訓練の時にも電気自動車の話を伺わせていただきましたが、やはり私も中国に負けてはだめだと思います。

ぜひそこは知事にリーダーシップを持っていただいて進めていただきたいと思いますし、特に私共の自治体としては、プラスチックの問題の対策についてはCO2のみならず、海洋生態系への影響等、非常に深刻化、重要な問題であるというようなことで、プラスチックごみの7割は過剰な容器包装とも言われていますので、私自身も市長になった時から、この資源循環型社会については非常に力を入れているところでもあって、基礎的自治体である本市としても、使う責任を担う1消費者として、自らも脱プラに取り組むということと、消費者である市民に脱プラ生活への転換を啓発していきたいと思っています。

ただその一方、つくる責任を担う生産者に対する地元自治体、その影響力は限られておりますので、大都市である東京だからこそできる生産者への働きかけや、国内での循環システムづくりに向けた取組を、ぜひお願いしたいと思っています。

東京都におかれては、もう既に都庁においてプラスチック削減方針であったり、レジ袋であったり、いろんな対応を矢継ぎ早に小池都知事の下、発信されておられます。私共の自治体としても、しっかりその辺り見習いながら進めていきたいと思っていますが、大胆な取組ということで、ぜひ連携をさせていただきながら進めていきたいと思っていますので、ひとつよろしくお願いたします。私の方からは以上です。

○知事 ありがとうございます。先だつての多摩市へお邪魔いたしました際も、いろいろと多摩の将来についてのお話、直接伺ったところでございます。今日はより具体的に様々な項目でのビジョン、また今後の方針等伺わせていただきました。ありがとうございます。

まず、大変環境対策に熱心に取り組んでいただいていることに敬意を表したいと思います。今朝ほど、前のアメリカの副大統領を勤められたアル・ゴアさんが今来日中で、この勉強会の方にまいらせていただきました。本当に世界的に、先ほどのグretaさんの話もそうでありますけれども、世界中でこの気象がこれまでにない状況であるということを皆で共有することが、今このプラスチック問題も含め、気候変動対策も含め、追い風になっているかと思えます。

というか、こういうふうな世界に、地球上の変化っていうのは我々のライフスタイルによるものが多いので、そこをいつも心技体って言うんですけども、意識とそれから技術とそれから制度と、これを噛み合わせてやっていくことがポイントだと、このように思っています。

2050年までにCO2の実質ゼロに貢献をするということで、ゼロエミッション東京を打ち出しているわけでもあります。この中には公共施設を含む都内の建築物を省エネ化、再エネ

化していくっていうのが、一つの筋道になるわけでありまして。

公共施設の省エネ化については、具体的な省エネ設備に関する説明会も、都として市の皆さんに、区市町村の皆さんに御提示、説明もまた御紹介もしているところですし、省エネ技術の進歩というのも日進月歩ですから、いろいろ新しい装置、安くて効果があるっていうような情報提供等もさせていただいておりますので、御参考にさせていただきたいと思っております。

それから再エネの導入については太陽光発電等、地産地消型の再生可能エネルギーの導入、これも非常に効果があります。これについては都の補助制度がございますので、こちらの活用も御検討いただきたいと存じます。ZEB で進んでおられるというのは、非常に心強い御報告受けたと感謝申し上げます。

それからプラスチックであります。東京水っていうのをいつもここにポンと置いてるんですが、あれペットボトルなので最近はそのまますてお勧めして、そのガラスさえ今日は出してないの。すいません。

CO2 の実質ゼロと、それから海洋へのプラスチック流出ゼロと、この2つのゼロなんですけれども、とても便利なものであると同時に、いろんな弊害を生み出しているということから、チームもつたいない等もこの都庁を中心になってやっておりますけれども、消費者の行動もこのプラスチックでいいのかとか、選択する時にその容器がどういうものであるか等々、非常に消費者も情報をしっかり得た方が多いので、それらをこの行政として移行させるような、そういう後押しが必要かと思っております。よって製造販売事業者に対しても、使い捨てプラスチックに依存しない、新たなビジネスモデルへ移行する際に励ますといったようなこと等も必要かと思っております。

つくる責任ということを積極的に果たそうとする先導的な企業もございまして、そちらの方には褒める、それから様々な支援をするということで、流れを行政が引っ張っていくというのは都であれ、市であれ、同じ流れ、方向だと思っておりますので、それぞれ市民を巻き込んで、そしてまた事業者を巻き込んでの流れづくりということをしっかりと進めていきたいと思っております。

これまでいろいろと社会的なモデルで、例えば社会福祉だったらその北欧の方に、スウェーデンに行くとか何とかありました。環境については、以前まで随分世界から日本のモデルっていうので来ておられたと思うんですね。最近あんまり来てもらってないんで、また来てもらおうべく、そのためには積極的にモデル事業を行って実践、実績を上げるということではないかというふうに思います。

日本の技術を活かすことと、それからこの廃棄物等に対して分別等、本当に特に主婦の皆さん等、本当にしっかり取り組まれてますので、うまくやらないとお叱りを受けますし、そんなことも含めて、これからは多摩市の方でもしっかりとお取り組みいただければと思っております。

今日はいただいた御意見も長期戦略の策定、それから来年度の予算編成に当たって、しっかり参考にさせていただこうと、このように思っておりますので、ありがとうございます。

す。

○行政部長 阿部市長、いかがでしょうか？

○多摩市長 ありがとうございます。知事もおっしゃっていただいたように、地球温暖化対策は待ったなしだと思います。自治体としてできることということで、例えば食品ロス削減であったり、それから ZEB の普及であったり、プラスチックの排出削減、特にワンウェイの使い捨てプラスチックの削減等についても、先ほどちょっと申し上げたとおり、なかなかやはり自治体だけで全てがクリアにできるという課題ではありませんので、企業であったり、市民の皆さんであったり、呼び掛けていかなければなりませんし、この辺がちょっと欧米の自治体と違って、非常事態宣言を行うことによって全市的になくすんだって、はっきり言えればいいんでしょうが、まず隗より始めよということで、私共の方も市役所の中であったり、それからノベルティグッズ含めて、今まで出していたもの、こういうものの中にはプラスチックかなり多いので、そういうところも手掛けながら、やはり市民の皆さんに啓発を呼び掛けながら、大きくやはり姿勢を変えていかないと、やはり地球温暖化、今回東京都の方でも示されていますけれども、やはり 100 年掛けて達成するのではなくて、50 年でも遅くて、やはりこの 10 年間でなんとかしていこうという、私共のそういう姿勢でぜひ臨んでいきたいと思います。

ただやはり市民の皆さんに、特に私共の自治体では分別についてはかなり徹底してやってきていますので、やはりこれからそのプラスチックについても買わないで済むものは買わないでいこう。それからやはり事業者の皆さんにも弁当箱 1 つとってもそうですが、できるだけプラスチックでないもの。そうなるってくると、私共今課題になっているのは、実はその分別でプラスチックの、収集して袋があるんですけど、これはプラスチックなんです。ですから、これをバイオマスっていうか、そのようなものに変えていくことができないのかなっていうことは、今所管で検討しています。

ただ、コスト的にやはり高くつくんですね、そのとうもろこしであったり、そういうものに変えていこうとすると。するとやはりそこはそれで 1 つのマーケットが広がっていけば、コストも圧縮できると思うので、この辺りについては私共一自治体だけではなくて、他の自治体等に呼び掛けながら、しっかりそうしたところも進めて、私共の場合は有料でやっておりますので、23 区とそこはちょっと違いますので、やはり市民一人ひとりもこれを負担に感じるのではなくて、地球環境を守っていく、地域をよくしていくためには、自分達もやはり一緒に関わっているっていう姿勢が必要だと思っていますので、その辺りはぜひ、本当は 23 区の皆さんにも共に歩んでいただきたいなと思っていますのであります。

ぜひ、私共も今後奮闘して頑張っていきますので、いろんな形での支援、よろしく願いいたします。

○知事 これはスケールメリットを確保するというのも、大きなことでございますので、ぜひ多摩もとんがった政策で市民の皆さんの御理解を得て、いい好事例をつくっていただければ、また後押しもしやすくなると、このように思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 よろしいでしょうか？それでは意見交換を終わらせていただきます。今日は遠いところ、ありがとうございました。